猛暑でドイツの2026年ホップ収穫量が20%減

業界団体によると、アルファ酸不足で2027年には650メートルトンの供給不足が見込まれ、アロマホップが特に影響を受ける

2026年11月12日（木）



2026年、ドイツのホップ収穫量は大幅に減少した。夏の異常な猛暑と干ばつで収量が落ち、アルファ酸含有量も低下したことから、2027年に一部の醸造用品種の供給が滞る懸念が高まっている。

ドイツホップ生産者協会とドイツホップ産業協会は11月11日水曜日、ニュルンベルクで開催された見本市BrauBevialeの記者会見で、今年の収穫量は約34,500メートルトンだったと発表した。ドイツの生産量が43,141メートルトンだった2025年に比べ、約20%の減少となる。

両団体によると、不作の主な原因は、夏の異常な暑さと長引く乾燥だった。ドイツ最大のホップ産地であるハラタウでは、5月から8月にかけて猛暑日が46日記録され、過去の年の約3倍に達した一

方、降水量は平年の約半分にとどまった。

収穫量の減少に加え、業界が大きな懸念を示しているのがアルファ酸含有量の低さだ。苦味や醸造特性に影響するため、醸造家にとって重要な指標であるドイツのアルファ酸生産量は、平年並みの収穫時を約30％下回った。ホップの数量と醸造成分の双方で供給が減れば、ビールメーカーの調達やレシピ計画が難しくなる可能性があり、とりわけ特定のアロマ特性に依存するメーカーへの影響が大きい。

生産量の減少は、栽培農家の経営にも重くのしかかる見通しだ。ドイツホップ生産者協会の会長Adi Schapfl氏は、ドイツのホップ農家の収入は近年に比べて約7,000万～8,000万ユーロ減る可能性が高いと述べた。同時に、農場では生産コストも上昇している。Schapfl氏によると、2026年のホップ栽培は、多くの圃場や経営体で採算の取れない事業となった。

減産はドイツに限らなかった。業界団体によると、欧州連合（EU）全体のホップ生産量は約46,000メートルトンで、前年から20％減少した。世界の生産量は約97,300メートルトンと推定され、11％減となった。

2027年の醸造年度を見据え、ドイツホップ産業協会は、アルファ酸の需要がなお緩やかに減少しているにもかかわらず、市場の供給状況はさらに厳しくなるとの見通しを示した。同協会によると、算定された需要に対してアルファ酸の供給量が明確に不足するのは2018年以来初めてとなる見込みで、不足量は約650メートルトンと推定される。

ただし、需給の逼迫が市場全体に一様に広がるわけではない。同協会によると、実際の不足はアロマホップやファインアロマホップの品種に集中する可能性が高い一方、アルファ酸含有量の高い品種では過年度からの繰越在庫が依然として豊富にある。市場の他のカテゴリーに在庫が余っていても、一部のビールスタイルやブランドのレシピを維持することが難しくなったり、コストが上がったりする可能性がある。

10月にドイツホップ産業協会の新会長に就任したStephan Schinagl氏は、不作は市場を長期的に調整するのではなく、不確実性を生むと述べた。同氏は、気候変動に強いホップ品種の導入拡大、作付面積のより的を絞った調整、そしてホップ業界とビール醸造所との信頼性の高い契約を通じて、長期的な供給を守るよう求めた。

Schapfl氏も、ホップ価格が低迷すれば、事業から撤退する生産者が増え、栽培面積がさらに縮小する可能性があると警告した。不作にもかかわらず、多くの品種では価格が依然として生産コストを賄えていないという。現在は市場の一部で供給過剰となっている状況が、中期的には供給不足に転じる恐れがあるとの懸念が強まっている。